

# 釧路湿原 自然再生協議会

## ●達古武川上流部の調査・計画

- 自然環境現況と特徴を把握するための調査の実施
- 利活用面の整備の実施
- 今後の事業計画の実施(車両アクセス路の確保、土砂流出モニタリング、エゾシカ食害防止ネットの設置)

## ●実施計画と今年度の追記について

- 継続的な計画:成果(H25~H28)⇒計画(H29~H32)

## ●施工計画の達成状況

- ◆ 地表処理：1-5工区で実施
- ◆ 防鹿網：8,850m 1-5工区で実施
- ◆ 間伐：17.5ha 予定範囲実施済み
- ◆ 育苗 25,000本 初期計画の63%
- ◆ 植栽：8.02ha 計画の24%

## ●今後の各事業について

### ① 自然林の再生(H29~H32)

- 防鹿柵の設置・植栽の継続
- 防鹿柵・間伐下での地表処理効果の検証
- 試験的事業の実施

### ② 育苗と植栽(H29~H32)

- 釧路地方の豊凶状況に左右される採種、天候の影響や発芽率の低下等により、ここまでの植栽計画は遅れている。
- 植栽は計画の20%程度を達成、H32までに50~60%の見込み
- 上流部での採種等、より効率的に育苗を進める。

### ③ 評価モニタリング(H29~H32)

- 森林生態系のモニタリングとして5年間隔の調査を実施。
- データが単独年で安定しない昆虫類については前後2年も調査して総合的に評価。
- リファレンスサイトは2018年に上流部で再設定。
- 土砂モニタリングは5年間隔で実施。

### ④ 環境学習(H29~H32)

- これまでの調査成果、再生の場を活かして、環境学習を実践。
- 年2回の市民参加プログラムの実施、キャンプ場対象のフリープログラム実施。

このようなことが話し合われました。(詳しくはHPをご覧ください)

委員長 委員 事務局

● 環境学習の今後の予定で、上級者や指導者向け講座の実施とあるが、具体的にどんな人を想定しているのか。

● 達古武上流部区域では起伏が激しい箇所があり、ある程度の経験や脚力、体力がある方を上級者として想定している。指導者の想定は学校教員等であり、学校教育に役立つような案内をしていきたい。

● 「間伐の集材システムを踏まえた植栽方法の実施」とは具体的にどのような方法を考えているのか。

● 間伐集材において、狭い箇所や急勾配の箇所では下層木を保護したいが保護できない状況にある。今後は間伐区域を樹高幅程度かそれ以上にすること、集材引き上げ場所を事前に確認した間伐計画を考えたい。成長が良い箇所については小面積皆伐を検討する。

● 集材、運材という手順はどのように行うのか。

● 道に接続した部分で小面積皆伐を行う。道に接続していれば土場を設けずに仮置きができる。

● 「積雪が少なく、被食されにくい状況」というのはどういった状況か。

● 冬期のエゾシカの主食はササであり、積雪が多い場合はササが雪に埋まって食べられなくなる。そういう場合に樹皮や枝、稚樹を被食すると考えられる。そのため雪の少ない年では稚樹への被害が減ると考えられる。

● 植栽本数を1,800本から3,600本に変更したと聞いたが、変更した理由は何か。

● 以前は植栽木の定着率が低く、委員会で提案を受けたこともあり、やや密度を上げての束植に変更した。苗サイズをまとめた数量で植えることで定着率は良くなっている。樹高2mを超える成長も見せている。

## その他

## ●林地開発行為に対する対策として作成した土地所有者あてのパンフレットが完成。第23回釧路湿原自然再生協議会にて委員へ配布。

### 第16回 森林再生小委員会 [出席者名簿 (敬称略、五十音順)]

#### 個人[4名]

清水 信彦 杉澤 拓男 高橋 忠一 中村 太士(北海道大学大学院 農学研究院教授)

#### 関係行政機関[4機関/4名]

国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部 [治水課長 渡邊 和好]  
環境省 釧路自然環境事務所 [所長 安田 直人]  
林野庁 北海道森林管理庁 [森林整備部長 石原 聡]  
標茶町 [農林課長 牛崎 康人]

#### 団体[6団体/6名]

釧路生物談話会 [代表 須摩 靖彦]  
釧路造園建設業協会 [副会長 吉田 英司]  
釧路武佐の森の会 [会長 大西 英一]  
さっぽろ自然調査館 [代表 渡辺 修]  
標茶西地区農地・水保全隊 [隊長 佐久間 三男]  
公益財団法人 北海道環境財団 [安田 智子]

#### オブザーバー[1団体]

いであ株式会社 [幸福 智]

#### 資料の公開方法

委員会で使用した資料および議事要旨は、釧路湿原自然再生協議会ホームページにて公開しています。  
[http://www.ks.hkd.mlit.go.jp/kasen/kushiro\\_wetland/index.html](http://www.ks.hkd.mlit.go.jp/kasen/kushiro_wetland/index.html)

#### ご意見募集

釧路湿原自然再生協議会運営事務局では皆様のご意見を募集しています。  
電話・FAXにて事務局まで御連絡下さい。

### 釧路湿原自然再生協議会 運営事務局

TEL (0154) 23-1353 FAX (0154) 24-6839

2016年10月13日(木)

「第16回 森林再生小委員会」が達古武地域(達古武川上流部)及び釧路地方合同庁舎5階 第1会議室 で開催されました。

### ■開催概要

「第16回森林再生小委員会」が平成28年10月13日(木)に、達古武地域(達古武川上流部)及び釧路地方合同庁舎5階 第1会議室で開催されました。小委員会には、15名(個人4名、団体6団体、オブザーバー1団体、関係行政機関4機関)が出席しました。今回は、達古武地域(達古武川上流部)の再生事業地視察について説明が行われ、その後、雷別地区及び達古武地域事業について総括的な意見交換が行われました。

## 再生事業地視察：達古武地域(達古武川上流部)

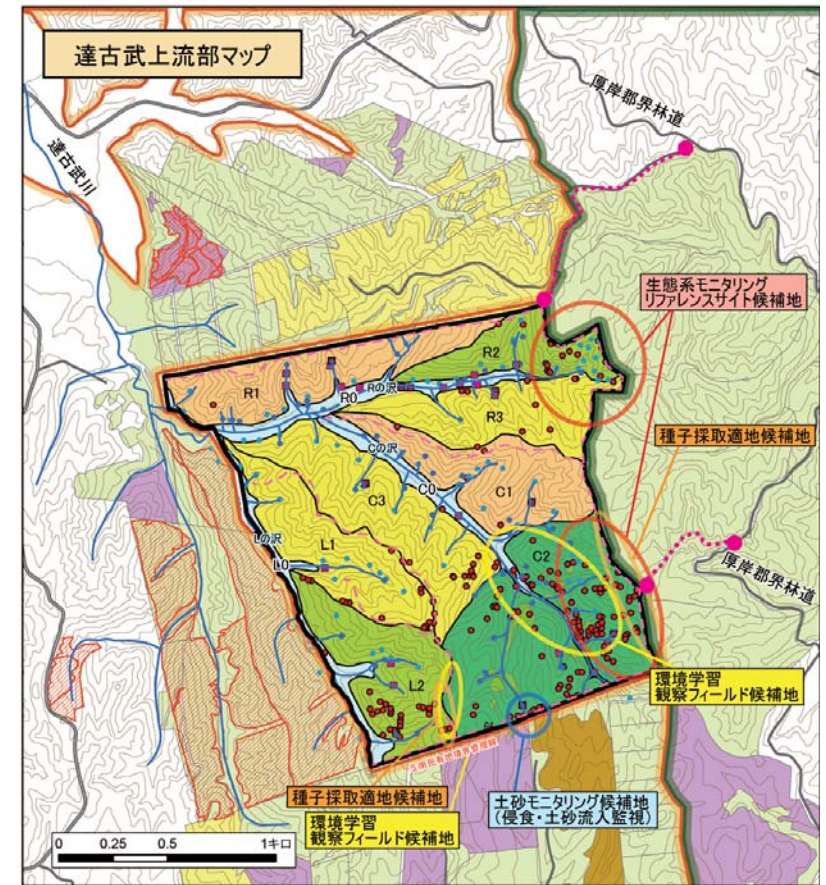
達古武川上流地域の自然林の保全と自然再生等の事業を目的とし、2014年に環境省が取得した林地(約297ha)の一部を視察した。

### 1 現地視察箇所

- 沢の崩落箇所→河岸侵食の状況を視察
- 広葉樹林や針葉樹を含む林  
→林内の様子やシカの被食状況を視察
- 種子採取予定箇所  
→ミズナラ、ダケカンバの母樹を視察
- 環境学習での利用  
→森林の姿を学ぶ、種子採集イベント等の活用を検討
- 事業地隣地の伐採跡地  
→太陽光パネル設置予定のため皆伐された隣接地を視察



現地視察状況(環境学習での利用)



### 2 達古武川上流部の森林保全・活用について 現況把握のための現地調査(平成27年度)を行い、主に以下について検討した。

- ① 森林環境や沢環境の保全(エゾシカによる被食、沢の浸食や土砂流入の対策)
- ② カラマツ人工林の自然林再生事業のリファレンスサイトとしての活用
- ③ 自然林再生に用いる地域産種苗育成のための種子採集地としての活用
- ④ 土砂等の流入状況を把握するモニタリングサイトとしての活用
- ⑤ 再生取り組みへの理解の場、環境教育の場としての活用

### 3 水環境にかかる調査計画 達古武湖への土砂及び栄養塩類の流出負荷量の把握等のため、3箇所の小河川について水質調査を行っていく。(湿原再生小委員会:東部湖沼自然環境調査で実施)



